

## 【本スライドの目的】

---

- 本スライドは、「オンライン会議システムZoomを使った授業運営：3ステップで考える」スライド（以下、3ステップスライドとします）を使って、自分の大学や学校で研修を行いたい方向けに実施した、主に他大学のFD担当者向けの講座で使ったスライドです。
- 3ステップスライドがどのように作られているのか、背景理論などを説明しています。
- 本スライドの著作権については、最終ページに記載有。

オンライン会議システムZoomを  
使った授業運営  
3ステップの研修実施に向けて  
解説≡≡講座

2020/5/24

星槎大学

三田地 真実 & 渋谷 聡

(全学FD委員会委員長) (学部教務委員長)

---

## このミニ講座のゴール

---

この講座を受講して下さった**皆様（FD担当者）**が：

- 「オンライン会議システムZoomを使った授業運営：3ステップで考える」スライドを使った研修を**実施して**、
- その研修の参加者が「なんとか」オンライン会議システムを使ったライブ授業を実施することができるように**支援できる**ようになること
- 研修対象は、特に「**ICTが苦手**」という教員を想定

# 今日のスケジュール

---

1. オリエンテーション（自己紹介・経緯・ルール等）
  2. 「オンライン会議システムZoomを使った授業運営」  
研修企画・実施のポイント
  3. 配布させていただいた研修PPTの使い方実演
  4. まとめ「FD研修会の組み立て方」
- 「事後アンケート」にもご協力お願い致します

【**ご注意**】今回は配布PPTを使った研修ではありません・・・

•

# 1.オリエンテーション【自己紹介】

三田地（みたち）真実（Ph.D.）

- 米国オレゴン大学博士課程修了
- 元教員、言語聴覚士（ST）
- 2011年～星槎大学教授
- 現在、全学FD委員会委員長
- 専門：  
行動分析学、ファシリテーション、  
コミュニケーション障害学  
(not ICT)



# 1.オリエンテーション【自己紹介】

---

渋谷 聡 (しぶや さとし)

- 2013年～星槎大学教員
- 現在、学部教務委員長、陸上競技部部長
- 専門：
  - スポーツ心理学、陸上競技、教材開発、インクルーシブスポーツなど
- コメント：  
ZOOMは覚えました、  
パソコンは詳しくありません



# 1.オリエンテーション【受講のルール】

- お名前は、「苗字@大学名」でお願い致します。
- カメラは、基本「オン」（やむを得なければオフで）
- 本日は、**大変短い時間**での講座となっています。
- チャットでご質問やご意見を書いていただくのは全く問題ございません。受講している先生方同士でお答えがわかる場合は、お互いにどんどん書き込んでください。ただし、講師がこの講座中でお答えする時間はほとんど取れないことをご容赦ください。
- 音声でのご質問は今回はご遠慮ください。
- 記録のために録画していますが、外部配信**無**



# 1.オリエンテーション【Zoom導入経緯】

---

## 星槎大学紹介

- 学部：共生科学部（通信制）
- 大学院：  
教育学研究科（修士・博士）（通信制）  
教育実践研究科（専門職学位）（通学制）
- 学生の居住地は、語義通り**全国**津々浦々





# 1.オリエンテーション【Zoom導入経緯】

---

- 2016年度 Zoomを紹介、TV会議システムに替えて導入がスタートする
- 2017年度 大学院の授業やスクーリングは、ほぼZoomでの全面実施となる
- 2019年度 学部のスクーリングにおいてもZoom普及



- 2019年2月 学部SCを急きょZoomに切り替えて実施（延べ300名の学生受講）

# 1. オリエンテーション【Zoom導入経緯】

---

- 2019年度学位記授与式、2020年度入学式を全Zoomで実施（130名、260名参列）※リハあり
- 2020年4月初旬 大学の危機管理方針に基づき、全教員がオンライン授業実施に向けて、研修企画がスタート（**3ステップ案**）※次スライド
- 同年4月末までに、4回の研修を実施、延べ265名の教員（専任・非常勤、計約200人強）が受講
- 5月のスクーリング・授業からオンライン授業を各教員が実施中
- FD研修会は継続計画中（例：ブレイクアウト特訓）

# オンライン授業運営に向けての 全学FD研修会

手続き案

Mami Mitachi

2020/4/3

# 進め方の手続き

---

1. 全学(含む非常勤)教員の実態把握
2. スキルレベルに応じた全体研修実施
3. 高スキルの教職員には講師役を依頼して  
5～6名(マックス10名)でのOJT

# オンライン(インターネット経由)を使った授業

	ライブ配信	オンデマンド配信
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>教師と生徒(学生)は別々の場所からネットにアクセスして参加する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>教師が事前に録画したものを生徒(学生)が各自で視聴する</li></ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>教師—生徒の双方向のやり取りが担保される</li><li>グループワークも可</li><li>学生同士もお互いの顔が見られる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>教師:一度録画すればよい</li><li>生徒:いつでも好きなときに視聴可</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>一度に、100人の受講がおそらくマックス</li><li>理想的には、20人以下</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>録画・編集に相当の時間がかかり、そのための技術を要する(ただ録画は配信不可)</li></ul>

※両方を実施した率直な感想:

- ・ オンデマンドは作りこむのがかなり大変。
- ・ ライブ配信は、遠隔ではあっても「一体感」を作り出すことはできる。

# ライブ配信授業ができるために 3ステップ必要

1. オンライン会議システムに「参加」できる
  - 参加者のお作法を受講者に指導する必要あり
2. オンライン会議システムが「運営」できる
  - 「ホスト」といわれる役目を行える
3. オンライン会議システムで「授業」ができる
  - 生徒(学生)の様子を見ながら、授業が展開できる

# 今日のスケジュール

---

1. オリエンテーション（自己紹介・経緯・ルール等）
2. 「オンライン会議システムZoomを使った授業運営」  
研修企画・実施のポイント
3. 配布させていただいた研修PPTの使い方実演
4. まとめ「FD研修会の組み立て方」

研修企画・実施のポイント

---

オンライン会議システムを使った授業運営



# 研修企画 = 参加者 × 目的 (ゴール)

---

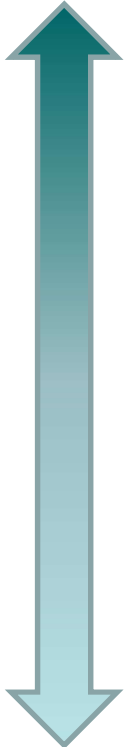
【基本ルール】短期決戦するならば・・・

- 全教員対象に同じ研修を漫然とやってはいけない
- 参加者の実態に応じた研修を準備する
- 最終ゴールから、スタート地点にさかのぼって企画

## 最終ゴールから遡る（主語は受講者）

---

【最終ゴール】完全に一人でオンライン会議システムを使いこなして授業が行える

- 
- ホストはやったことがある（が自信はない）
  - 参加は問題ない（が、ホストはできない）
  - 少しは参加できる
- etc.

【スタート地点】オンライン会議システムを使ったことがない

---

# 研修企画のポイント(1)

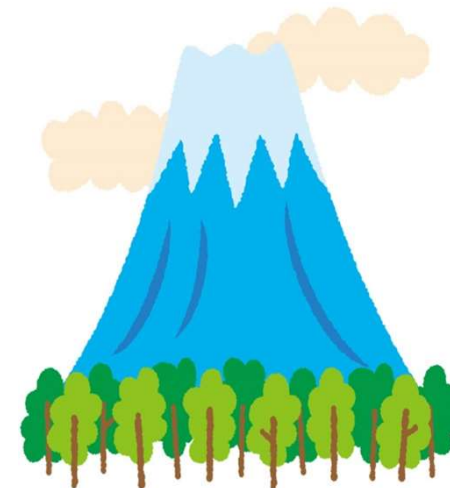
---

- 獲得してもらいたいスキルに優先順位を付ける
- 獲得してもらいたい「具体的なスキル」を列挙する
- スタート地点の方が「まず」獲得してもらいたいスキルは何かを10以内位選抜（多すぎてもダメ）
- 同じように、次に獲得してもらいたいスキルを選抜
- できるところから始めて、徐々にレベルアップする。

# ポイント（１）の裏にある理論

---

- 行動分析学の「スモールステップの原理」
- 「富士の山も一歩から」原理
- ICTに長けた人も最初は、「ワンクリック」から
  - 私も４年位前は、全くZoomはできませんでした



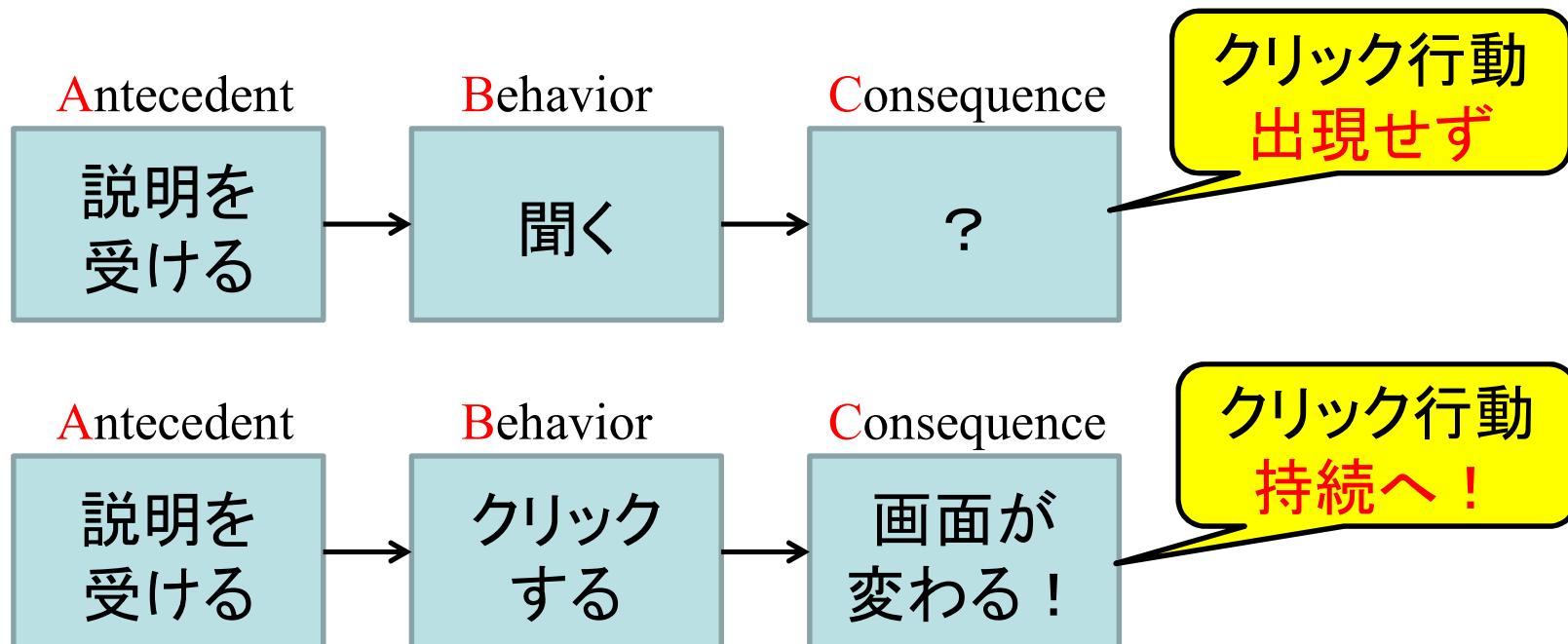
## 研修企画のポイント（２）

---

- 説明だけで終わってはダメ（特にICT系）
- 必ず、手を動かしてもらおう、そして結果を自ら体験
- 特に画面を映写してスクロールして見せても、初学者には何が起きているのか、さっぱりわからないこと多し

## ポイント（２）の裏にある理論

- 行動分析学の「ABCフレーム」と「強化の原理」
- 行動は「**結果**」が伴って持続する



## 研修企画のポイント(3)

---

- プログラムができた（PPTができた）後、それをどうやって伝えるか？
- 同じPPTを使っても、講師が変わると場が変わる
- 綿密な準備に、丁寧なインストラクションが必須

## ポイント（３）の裏にある理論

---

- 場づくりの技術としての「**ファシリテーション**」
- 特に「**インストラクション**」は、研修の「**命（＝要）**」
- 良いプログラムであっても、実際に場をホールドする人（ファシリテーター）の**振る舞い**で生かされも殺されもする
  - 言語・非言語行動の両方



# 今日のスケジュール

---

1. オリエンテーション（自己紹介・経緯・ルール等）
2. 「オンライン会議システムZoomを使った授業運営」  
研修企画・実施のポイント
3. 配布させていただいた研修PPTの使い方実演
4. まとめ「FD研修会の組み立て方」

そういう裏理論をご理解いただいて、Let's go!

---

「オンライン会議システムを使って授業運営  
～ 3ステップで考える」スライドに移ります

3 ステップスライドから戻ります

---

実際、受講された先生方のご意見紹介

# 研修直後の参加者アンケート

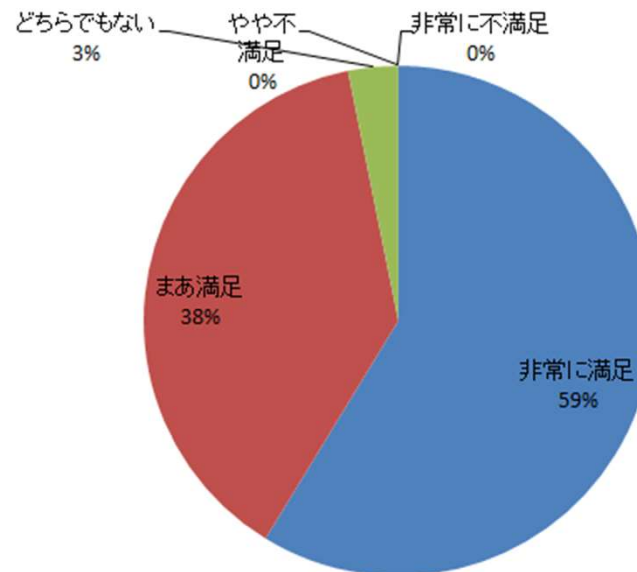


図1 オンライン授業のための研修の満足度  
(n=63)

【自由記述より】大変にお世話になり感謝でいっぱいです。ご多忙にも拘わらず不慣れな私たちに時間を作って親切、丁寧、熱心にご指導いただき4月30日の目標の「授業をする」まで見通しを持つことができました。感謝です。

# 実際、研修後に**授業を実施**してのアンケート

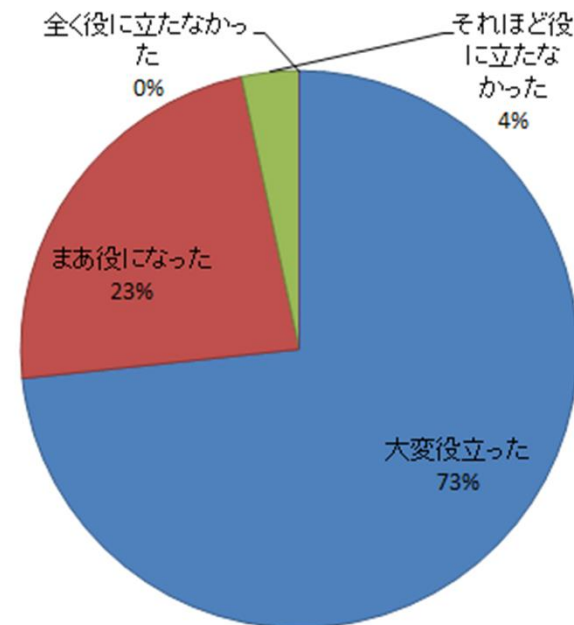


図2 オンライン授業のための研修は、実際の授業実施に役立ったか  
(n=30)

【自由記述より】分かりやすかった。グループワークも可能なことが分かったこと  
FD研修ではステップ3を受講したので、パワポと動画を入れたスクーリングにしてみました。

# 今日のスケジュール

---

1. オリエンテーション（自己紹介・経緯・ルール等）
2. 「オンライン会議システムZoomを使った授業運営」研修企画・実施のポイント
3. 配布させていただいた研修PPTの使い方実演
4. まとめ「FD研修会の組み立て方」
  - 「事後アンケート」にもご協力お願い致します

# 【まとめ】 FD研修会の組み立て方

【研修の最終ゴール】  
「嫌だな」を「**それ、やってみよう！**」に  
変貌させること！

# 大事なこと⇒これに尽きます！

---

- 自分のFD研修を受講してくれた方が
- 「やる気になって」実践してくれること！
- NG：益々嫌になってしまうこと



# 教える側と習う側（教わる側）

---

- 前提：圧倒的な知識量・技術の差
- 特にICT関係はその差が「凄すぎる」
- ICT専門家の「当たり前」  
⇔全く知らない人にとっては「**嫌悪刺激**」でしかない

# 「嫌悪刺激」の代表例

---

- ① ちょっとしたICT用語がわからない
- ② 細かい説明を受けても、実際何ができるのかわからない
- ③ 「こんなこともわからないの？」というオーラを講師から受けると、ますます受講している人の「やる気はそがれる」

## ①ちょっとした用語がわからない

---

- Zoomの例で例えば
  - カメラ⇔ビデオ（用語がブレている）
  - マイク⇔ミュート（同上）
  - チャット、ホスト、ブレイクアウト・・・
- 一般的な用語でも
  - アイコン、デフォルト、インターフェイス・・・
  - とにかく「カタカナ用語」が多すぎ！

## ①を具体的に解決する手立て

---

- そのツールや領域を**全く知らない人**に自分のPPTを見てもらい、できれば研修の**リハーサル**を行う
- その際に「わからない用語や言い回しは**どんな小さなことでも良い**ので教えてください」と依頼する
- 「わからない用語」などを教えてくれたときには思い切り**感謝**する⇒これ大事！（行動のABCフレーム）

## ②細かい説明を受けても、**実際何が**できるのか わからない

- よくわかっている人の説明は往々にして、「**細部**に行き  
亘り過ぎ」
- 丁寧に説明しないと「わからないのでは」という**良かれと  
いう優しさ**ゆえからなのだが、
- 結果的に、それが初学者（特に初めてのICTツールを  
使う人）には返って、**混乱**をきたす

## ②を具体的に解決する手立て

---

- まずそのツールではどんなことができるのか、**受講者の文脈**で最初に見せ、できれば **体験**して、おもしろさを味わってもらう
  - 例：Zoomであれば、早いうちに「くどくど説明しないで」**ブレイクアウトセッションを体験**し、「え、こんなことができるんだ！ やってみたい、使ってみたい！」という気持ちを感じてもらおう
- そうすれば、自ずと「**学びたい！**」となる

### ③「こんなこともわからないの？」というオーラ を講師から受けるとやる気ダウン

- 残念ながら、このコロナ関係のためのオンライン授業研修の文脈においても、すでに複数の方からこの意見を伺っています

## ③を具体的に解決する手立て

---

- 受講している人は「知らないから」受けに来ているという前提を忘れない
- 自分も最初は**初学者**だったことを思い出す
- できないときに、**親身になって**サポートしてもらったことは一生忘れない



Don't forget your participants!  
(受講生の気持ち・実態を忘れない！)



---

これは結局、「**授業デザイン**」と同じです！

# このミニ講座のゴール

---

この講座を受講して下さった**皆様**が：

- 「オンライン会議システムZoomを使った授業運営－3ステップで考える」を使った研修を**実施して**、
- その研修の参加者が「なんとか」オンライン会議システムを使ったライブ授業を実施することができるように**支援できる**ようになること

“Are you ready for your FD?”



お互いに**智慧**を出し合って  
この状況を乗り切っていきましょう！

By Mami Mitachi & Satoshi Shibuya  
@Seisa University

---

Good Luck on your FD !

# 本スライドのご使用にあたって

---

本スライドは、著作権は放棄しておりません。以下に留意して皆様の教育活動拡大に**最大限ご活用**ください。

- 著作権表示をすること。
- 営利利用も可とします。
- 複写・再頒布は自由です。場所と責任を明示すれば改変も自由です。
- 改変した場合も、著作条件を継承してください。

連絡先： [m-mitachi@gred.seisa.ac.jp](mailto:m-mitachi@gred.seisa.ac.jp)

